

1. 木質バイオマス関連情報

■フォレストエナジー（株）（東京）、子会社の遠州フォレストエナジー合同会社（静岡）において、2023 年 12 月 13 日に遠州フォレストエナジー発電所の立柱式を実施。遠州フォレストエナジーはフォレストエナジーが 70%、静岡ガス&パワー（株）（静岡）が 25%、中部電力（株）（愛知）が 5%出資しており、静岡県袋井市において、静岡県産の未利用間伐材を中心とした国産材（木質チップ）を 100%利用した遠州フォレストエナジー発電所を建設・運営することを計画している。発電所の定格出力は 7,100kW、想定年間発電電力量は約 5,253 万 kWh（一般家庭約 1.7 万世帯の年間使用電力量に相当）。立柱式は、最も重要な構造物の一つであるボイラの柱を立てる際に行われる神事。建設工事の安全な進行と事業の成功を祈願する目的で行われた。発電所は 2024 年 12 月運開予定【フォレストエナジー（株）：2023/12/13、2023/04/14】

<https://forestenergy.jp/2023/12/13/enshu-fe/>

<https://forestenergy.jp/2023/04/14/enshu/>

■イーレックス（株）（東京）と SPHP Co., Ltd.（カンボジア）が、カンボジア王国鉱業エネルギー省との間で同国におけるバイオマス燃料やバイオマス発電等のエネルギー開発に関する役割・協力関係を確認する覚書（MOU）を締結。12 月 16 日には日本と東南アジア諸国連合（ASEAN）の日 ASEAN 友好協力 50 周年関連イベント「日 ASEAN 経済共創フォーラム」の中で覚書締結を記念した MOU 写真撮影セレモニーが、12 月 18 日には総理大臣官邸で覚書を含む二国間協力関連文書の交換が行われた【イーレックス（株）：2023/12/20】

<https://www.erec.co.jp/news/information/2593/>

■（株）柴田産業（岩手）、国立大学法人岩手大学（岩手）、フォレストエナジー（株）（東京）、（株）NTT アーバンソリューションズ総合研究所（東京）が、NEDO の実証事業として採択された「亜寒帯地域における早生樹の多品種の開拓による”エネルギーの森”実証事業」を開始。同事業では、亜寒帯地域（岩手県内の盛岡市、一戸町等）において「バイオマス燃料として

最適な早生樹の選定と立地・栽培条件の検証」、「早生樹の大量生産に向けた苗の栽培技術の開発」、「バイオマス燃料向け伐採・収穫の高効率収穫システムの開発」を実施する。事業の代表企業である柴田産業が「エネルギーの森」の事業化に向けた生産システムの検討を行い、フォレストエナジーがバイオマス燃料としての性能評価、栽培支援等を行うなど、それぞれがも

つ知見や実績を活かし実証を行う【（株）柴田産業：2023/12/20】

<https://shibata-sangyou.com/2023/12/21/%e3%82%a8%e3%83%8d%e3%83%ab%e3%82%ae%e3%83%bc%e3%81%ae%e6%a3%ae%e5%ae%9f%e8%8%bc%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%81%ae%e9%96%8b%e5%a7%8b%e3%81%ab%e3%81%a4%e3%81%84%e3%81%a6/>

■日本郵船（株）（東京）、2024 年度よりバイオ燃料を既存の重油焚き船舶の航行で長期的に使用するトライアルを本格実施へ。バイオ燃料は、廃食油などの生物由来の有機性資源を原料とするもの。同社グループでは 2019 年度以降、約 10 隻で短期間でのバイオ燃料による試験航行を実施し、安全性を確認できた一方で、船舶の主機関・発電機・原動機・燃料供給システムなどへの影響や、バイオ燃料を一定期間保管した場合の品質などの検証が課題となっていた。またより多くの船舶でバイオ燃料を使用する場合の燃料調達の実証も必要となっていた。今回のトライアルでは 3 か月間複数の船種で継続使用し、その後バイオ燃料の使用期間を段階的に延ばし、さらに長期間にわたる検証を行う。将来的にはバイオ燃料による安全航行を確立するとともにバイオ燃料の開発促進にも貢献し、2030 年度までに、GHG を 2021 年度比 45%減にする同社グループの目標達成を目指す【日本郵船（株）：2023/12/21】

https://www.nyk.com/news/2023/20231222_01.html

■欧州会計検査院（ECA）、EU の運輸部門のバイオ燃料普及に向けた支援のあり方に関する報告書を発表（12 月 14 日）。EU では 2023 年 4 月に 2030 年のエネルギーミックスに占める再生可能エネルギーの目標を定める再エネ指令を改正し、運輸部

門は 2030 年までに再エネ比率を 29%以上とするなど、より野心的な目標を設定している。しかし ECA は、EU は現在バイオ燃料に関する長期的政策が欠如しており、十分な投資を呼び込むことができず、持続可能性や製造コストなどが課題だと警告。2030 年以降の脱炭素化に向けてバイオ燃料戦略を策定し、持続可能な生産と、運輸部門のエネルギー転換を促進する必要があると欧州委員会に提言【JETRO：2023/12/22】
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/12/dc333bd0b5952b65.html>

■群馬県高崎市、障害者の就労の場として同市倉洲町に整備を進めるメロン水耕栽培施設を地域住民や関係者に公開。液肥が循環する栽培槽でメロンを育てる施設で、地域の間伐材を活用する木質バイオマスボイラを備え付け、農業と福祉の「農福連携」に加えて林業への貢献も目指す。東京都町田市の商工会議所と地元企業が開発し、従来は難しいとされていたメロンの水耕栽培を可能にした「町田式水耕栽培槽」を導入。作業負担が少なく管理しやすい水耕栽培を採用して障害者が就労しやすくし、付加価値の高い農産物を生産することで賃金向上につなげる。ハウス内を温めるボイラには、運転費用を抑えられる木質バイオマス用装置を導入。これまで利用していなかった間伐材などを燃料にする。間伐材の供給には烏川流域森林組合が協力。2024 年 1 月に試験栽培開始、2 月頃に管理棟完成予定、同年秋頃運営を開始し、2025 年 1 月の初出荷を見込む【東京新聞：2023/12/23】
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/297780>

■大館バイオ（株）（秋田）が秋田県大館市内で建設を進めてきた木質バイオマス発電所が 12 月 26 日、営業運転開始。同社は 2021 年 12 月、資本金 1,000 万円で地元の木質ペレット等製造事業者の北秋容器（株）の経営者や従業員らが個人で出資し、設立。大館市宮積内産業団地の一画に整備するとして、2022 年 5 月より着工。秋田信用金庫（秋田）、羽後信用金庫（同）、秋田県信用組合（同）の 3 金融機関が地域活性化や中小企業振興に取り組むとして連携協定を締結し、その第一弾として大館バイオのバイオマス発電所建設資金として 23 億円を協調融資している。同発電所は燃料に大館市や北秋田市など県北の間伐材を使った木質チップを利用。発電出力は最大約 1,990kW、一般家庭約 5,400 世帯分の電力使用量にあたる。FIT で東北電力（株）（宮城）の送配電子会社、東北電力ネットワーク（株）（宮

城）に売電し、年間 6 億円の売り上げを見込む【秋田魁新報：2023/12/24、日本経済新聞：2023/12/18、2022/03/30】
<https://www.sakigake.jp/news/article/20231224AK0013/>
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC1813W0Y3A211C2000000/>
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC29BHW0Z20C22A3000000/>

■政府、2024（令和 6）年度当初予算（案）を 12 月 22 日に閣議決定。林野関係予算の概算決定額は対前年度比 1.8%減の 3,003 億円にダウンしたが、11 月 29 日に成立した 2023（令和 5 年）度補正予算を加えた総額では同 44.0%増の 4,403 億円に【J-FIC News：2023/12/25、林野庁：2023/12/22】
<https://www.jfic.com/2024%ef%bc%88%e4%bb%a4%e5%92%8c%ef%bc%96%ef%bc%89%e5%b9%b4%e5%ba%a6%e6%9e%97%e9%87%8e%e9%96%a2%e4%bf%82%e5%bd%93%e5%88%9d%e4%ba%88%e7%ae%97%e3%81%af1-8%ef%bc%85%e6%b8%9b%e3%81%ae3003%e5%84%84/>
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/yosankesan/R6kettei.html>

■イーレックス（株）（東京）、ベトナム国カントー省との間でバイオマス発電所プロジェクトの開発・検討に対する情報交換および情報提供等を目的とした「バイオマス発電プロジェクト実現に関する包括連携協定」を締結。12 月 10 日に開催された「2030 年から 2050 年までのマスタープランのビジョン実現の為に投資促進会議」において、ファム・ミン・チン首相の立ち会いの下、イーレックスとカントー省との間で調印式を実施【イーレックス（株）：2023/12/25】
<https://www.erec.co.jp/news/information/2602/>

■（株）矢野経済研究所（東京）、2023 年 12 月、国内のバイオマスエネルギー市場に関する調査結果を公表。未利用木材や一般木材、輸入材などを燃料とする木質バイオマス発電や、下水汚泥、食品廃棄物、家畜排せつ物などの有機廃棄物を原料とするメタン発酵バイオガス発電など、国内で導入が進むバイオマス発電事業全般の発電電力量を推計。2023 年度のバイオマス発電量は 2022 年度比 107.4%の 4 万 3,583GWh の見込み。FIT 制度の見直しにより、大規模な木質バイオマス発電所の新規建設の動きが鈍化していることに加え、燃料の調達競争の激化により一部の発電所では稼働率が低下。2024 年度以降のバ

バイオマス発電量は微増基調にて推移する見通し。今後、食品廃棄物を原料としたメタン発酵バイオガス発電の増加が見込まれるとしている。また、複数の事業者が FIP 制度の活用を検討している一方で、FIT 制度だけでなく FIP 制度にも依存しないバイオマス発電事業を検討する動きが広がる可能性についても指摘【スマートジャパン：2023/12/26】

<https://www.itmedia.co.jp/smartjapan/articles/2312/26/news168.html>

■テスホールディングス（株）（大阪）、連結子会社の（株）伊万里グリーンパワー（佐賀）がバイオマス発電事業を行う佐賀伊万里バイオマス発電所（仮称）で、12月27日に発電所の主要設備の1つである蒸気ドラムの設置（ドラム揚げ）を実施。蒸気ドラムはバイオマス燃料の燃焼によりボイラ内で水を加熱した後、蒸気と水に分離させる重要な役割を担っているもの。同発電所は2022年2月に着工し、発電容量約46.0MW、想定年間売電電力量は約312,000,000kWh/年（初年度想定）。当初は主燃料に木質ペレットを使う計画だったが、価格高騰を受けてPKSに変更することとなり、2023年10月に開催された伊万里市環境審議会の場で報告されている。運転開始は2025年5月の予定【テスホールディングス（株）：2023/12/28、佐賀新聞：2023/10/17】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2377325/00.pdf>

<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/1128065>

■再生可能エネルギーの発電設備の故障に備える損害保険料が高騰。太陽光は災害による損傷に加えケーブルの盗難も相次ぐ。保険料の基準となる料率は過去5年で複数の損保で約2倍になった。風力やバイオマスも上昇傾向に。事業者の収益を圧迫しており、事業継続や設備の増設に水を差しかねないとの懸念が出ている【日本経済新聞：2023/12/28】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB21DNX0R21C23A200000/>

■産業用ボイラ等を製造する韓国のKパワーエナジーと、廃棄物固形燃料を生産するテハンENC、韓国最大手の総合化学メーカーであるLG化学、発電事業者の韓国南東発電からなるコンソーシアムが、ベトナムの環境保護組織である気候変動対応・環境保護センター(CEPVN)と覚書(MOU)を締結。産業用ボイラの燃料として主に石炭、石油などの化石燃料を使用しているベト

ナムの製造業に対し、韓国のコンソーシアムがバイオマス固体燃料およびボイラへ転換する事業を進め、温室効果ガスの削減を支援していく。KパワーエナジーとテハンENCは12月にも、ベトナムの他の企業とバイオマス固形燃料への転換・ボイラレンタル事業に関して10件のMOUを締結。これらの事業は、韓国環境省傘下の韓国環境公団が「国が決定する貢献(NDC)」達成のために進める「温室ガス国際削減事業」の一環。民間企業が参画する海外での活動で、2030年までに3,750万tの温室効果ガス削減を目指している【VIET JO：2024/01/03】

<https://www.viet-jo.com/news/economy/240101233814.html>

■NPO 法人九州バイオマスフォーラム（熊本、以下「KBF」）、2023年より肥料用の木灰の販売を本格化。製材所で発生したスギの端材・樹皮のみを原料とした、100%天然由来の燃焼灰。木灰はカリが多くリン酸や微量元素を含み、「カリ肥料」として昔から使われてきており、アルカリ性で酸性土壌の改良材としても使用可能。90ℓポリ袋入り（約20kg）とフレコンバッグ入り（約350kg）のものがあり、KBFのホームページより注文可【熊本日日新聞：2024/01/05、NPO 法人九州バイオマスフォーラム：2023/12/27】

<https://kumanichi.com/articles/1283850>

<https://kbiomass.org/2023/12/27/%e6%9c%a8%e7%81%b0%e3%81%ae%e8%b2%a9%e5%a3%b2%e3%82%92%e8%a1%8c%e3%81%a3%e3%81%a6%e3%81%84%e3%81%be%e3%81%99%e3%80%82/>

■木質バイオマス発電所の建設が相次いでいる鳥取県境港市、市内の遊休農地を活用した燃料用の樹木の試験栽培を計画。検証が順調に進めば、市内の事業者への納入も視野に入れている【山陰中央新報デジタル：2024/01/09】

<https://www.sanin-chuo.co.jp/articles/-/510481>

■住友商事（株）（東京）、ソラリアントキャピタルLLC（ソラリアント）（本社・USA）と2023年12月7日に新たなバイオ燃料製造およびサプライチェーンの構築に関する基本合意書を締結。製糖工場でサトウキビを圧搾した後の搾りかすである「バガス」とウッドチップから製造したバイオ燃料でディーゼルエンジンを稼働する国内初の実証実験開始。サトウキビ生産の北限で杉生育の南限である鹿児島県の種子島で、2024年にソラリアントが実証設備を建設。原料であるバガスは住友商事の持分法適用会社である新光糖業（株）（本社・大阪）から、ウ

ッドチップは種子島の森林組合から供給し、ソラリアントが開発した、バガスやウッドチップを熱分解して生まれる炭化物を重油と混合したバイオマス比率 30%の「バイオマス石油混合燃料」を製造。2025 年から住友商事グループを通じて、主に重油を使用している需要家に対し提供していく。また実証実験終了後は、住友商事とソラリアントで商業プラントを建設し、2027 年度から本格的にバイオ燃料およびバイオケミカルの販売を実施する予定【住友商事（株）：2024/01/11】

https://www.sumitomocorp.com/ja/jp/news/topics/2024/group/20240111_2

■テスホールディングス（株）（大阪）、連結子会社であるテス・エンジニアリング（株）（大阪）が参画する特定建設工事共同企業体が、SGET 笠間バイオマス合同会社（東京）から茨城県笠間市に建設する「笠間バイオマス発電所」の建設工事を受注したと発表。代表企業は三菱重工パワーインダストリー（株）（神奈川）で、三菱重工交通・建設エンジニアリング（株）（広島）とテス・エンジニアリングの二社が構成企業となっている。この工事でテス・エンジニアリングは、蒸気タービン発電機（発電出力約 10.0MW）と特高受変電設備の EPC を担当。着工時期は 2024 年 4 月の予定【テスホールディングス（株）：2024/01/16】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2381418/00.pdf>

■経産省資源エネ庁、1 月 16 日に第 92 回調達価格等算定委員会を開催。バイオマス発電に関し、(1) 2025 年度以降に FIP 制度のみ認められる対象、入札対象等、(2) 2025 年度の調達価格・基準価格、(3) 2024 年度以降の取扱い（持続可能性確認の取扱い等）について議論。その他、2024 年度以降の入札制および地域活用要件についても議題として上がっており、事務局が 2024 年度の入札実施スケジュール（案）を提示。それによると、バイオマス第 7 回入札（令和 6 年度）の事業計画受付は 9 月 2 日（月）～20 日（金）まで、入札募集は 10 月 15 日（火）～28 日（月）まで、入札結果公表は 11 月 5 日（火）となっている。またバイオマス持続可能性ワーキンググループが 2023 年 3 月から 12 月まで 7 回開催した中で、持続可能性基準及びライフサイクル GHG について検討し、整理した内容を取りまとめた委員会への報告資料も出されており、下記サイトより閲覧可【経産省：2024/01/16】

<https://www.meti.go.jp/shingikai/santei/092.html>

■テスホールディングス（株）（大阪）連結子会社のテス・エンジニアリング（株）（大阪）が、もがみバイオマス発電 2（株）（山形）から「特高受変電設備」の設置工事を受注。もがみバイオマス発電 2 はもがみバイオマス発電（株）（山形）が設立した、木質バイオマス発電事業会社。今回受注した特高受変電設備とは、電力会社より特別高圧を受電する場合に必要となり、規模の大きな発電所等には必要不可欠な設備。同社は 2018 年、もがみバイオマス発電のバイオマス発電所建設の際に同設備の EPC を担当しており、その際の設備が順調に稼働していること等が評価され、受注に至ったとしている。工事は 2026 年 4 月より着工予定【テスホールディングス（株）：2024/01/17】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2381667/00.pdf>

■大阪府泉佐野市、木質バイオマス発電施設の新築工事を早ければ 2024 年度に発注へ。施設には発電設備として、ボルタージャパン合同会社（東京）の分散型超小型バイオマスシステムのボルター 40 が採用される見通し【建通新聞：2024/01/17】

https://www.kentsu.co.jp/webnews/html_top/240116700004.html

■東急不動産（株）（東京）と国立大学法人電気通信大学（東京）、青森のスタートアップ企業の（株）フォルテが 1 月 18 日、北海道倶知安町のニセコ東急グラン・ヒラフスキー場で雪を使った「積雪発電」の実証実験を公開。積雪発電は、温度差でピストンが動く「スターリングエンジン」の仕組みを活用。実証実験では、高温熱源としてバイオマスボイラ、低温熱源には雪で冷やした不凍液を用いて磁石を上下にピストン運動させることで、最大 1.2kW の電力を出力した。高温熱源から出た熱を融雪にも活用でき、発電機が置かれている仮設小屋の屋根や、建物の前に設置されたアルミ板などに積もった雪を溶かす様子も見られた。積雪寒冷地の新たなエネルギーとして実用化を目指す【時事通信ニュース、北海道新聞：2024/01/18】

<https://sp.m.jiji.com/article/show/3145154>

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/964668/>

■岩手県花巻市の漬物製造業（株）道奥、（株）花巻バイオマスエナジー（岩手）が生産する「銀河きくらげ」を使った漬物の新作を共同開発。花巻バイオマスエナジーの発電所は岩手県産間伐材と、松くい虫被害木を花巻バイオチップ（株）（岩手）が

チップ化し、燃料に使用。発電出力 6,560kW、年間送電量約 5 万 2,000MWh/年。(株) タケエイでんき(東京)を通して地元の公共施設等に電気を供給し、余熱で銀河きくらげを生産している。漬物の新作はキクラゲと食感がいい遠野産の割り干し大根を使ったキムチ味。たれに甘みのある韓国産唐辛子とりんごペーストを使い、甘みと辛みをバランスよく仕立てた。細切りのキクラゲで試作したが、花巻バイオマスエナジーの高橋代表

取締役が従業員らの声を聞きながら「大根の食感に負けないよう、肉厚な歯応えを生かしたい」と意見し、大きくカットしたものに改良。1袋 90g で 486 円。道奥が経営する金婚亭や盛岡市のカワトクなどで購入可【岩手日報：2024/01/19、(株)花巻バイオマスエナジー】

<https://www.iwate-np.co.jp/article/2024/1/19/156966>

<http://hanamaki-be.jp/business.html>

2. ペレット関連情報

■(株) トクヤマ(山口)、オランダのベンチャー企業 Yilkins Drying Solutions 社の技術を導入し、山口県周南市にある自社の徳山製造所にブラックペレット(以下 BP)の開発用パイロットプラント建設へ。BP はバイオマスを低酸素状態で加熱処理し、石炭の性状に近づけたペレットのこと。通常ホワイトペレットに比べ、一般的にエネルギー密度が 20%程度高い。GHG 排出量を 2030 年度に 2019 年度比 30%減を目指している同社は、特に GHG 排出量の多い自家発電所での非化石燃料への燃料転換に取り組んでおり、BP の自社開発はその一環。バイオマス燃料化パイロットプラントの BP 製造能力は 500kg/h。2025 年 10 月完成予定【(株) トクヤマ：2023/12/20】

https://www.tokuyama.co.jp/news/pdf/2023122001_Release.pdf

■(株) レノバ(東京)、自社の持分法適用会社である合同会社御前崎港バイオマスエナジー(静岡)が保有する御前崎港バイオマス発電所(静岡)の営業運転開始時期を変更したと発表。同発電所は 2023 年 12 月中の運転開始に向けて試運転を進めていたが、長期間の安定稼働に向けたボイラ、タービン設備の最終調整に時間を要しているため、2024 年 3 月中に営業運転開始予定となった。発電所の燃料は木質ペレットおよび PKS。設備容量は 75.0MW、想定年間発電量は約 53,000 万 kWh(一般家庭約 17 万世帯の年間使用電力量に相当)。同事業の FIT 期間は 2024 年 3 月から 2044 年 2 月になるよう変更手続きを申請予定。東洋エンジニアリング(株)(千葉)と日鉄エンジニアリング(株)(東京)による共同企業体が一括請負で発電設備一式の設計、機器資材調達、建設工事、試運転までの EPC 業務を実施してきたが、この営業運転開始時期の変更に伴い、EPC 契約に基づいて完工遅延損害賠償金を支払ったもよう【(株)レノバ：2023/12/22、日鉄エンジニアリング(株)：2019/11/28】

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20231222_01_PRESS.pdf

<https://www.eng.nipponsteel.com/news/2019/20191128.html>

■ベトナムの大手バイオマス燃料供給業者である An Viet Phat Energy(AVP 社)が、ドイツの森林認証協議会(Forest Stewardship Council、以下「FSC」)の認証に復帰。同社は FSC 認証を受けたと確認できない原材料で製造した木質ペレットに、FSC100%表示を付与して販売したとして、2022 年 10 月より 3 年半にわたり FSC 認証からブロックされるとの通告を受けていた。しかし AVP 社の積極的な関与により、FSC 認証の復帰が加速。FSC は 2024 年 1 月 23 日、同社の復帰について「今後数年間、認証機関と Assurance Services International (ASI) の両方から追加の検査と情報開示の要求に応じるという同社の約束が条件」で「今後は FSC が主導する検証活動に参加することでも合意した」と発表。FSC の規定ではブロックされている企業から要請を受け取ると、当初のブロック期間を満たす前に解除することができるが、その誠実性や風評リスクを含め「ブロック解除」の影響について徹底的に評価を行うとしている。AVP 社の場合、FSC と覚書(MoU)を締結し、明記された矯正、予防、是正措置を履行することでブロックを解除できると判断。MoU には、特定の問題(虚偽の申告)の根本原因について分析を開始すること、FSC の規範的要件との整合性を確保するための予防措置を実施すること等が含まれている。今回復帰した AVP 社の認証有効期間は 2023 年 12 月 21 日～2026 年 8 月 24 日まで【リム情報開発(株)：2023/12/22、argus media：2023/12/27、FSC：2024/01/23】

<https://www.rim-intelligence.co.jp/news/rre/1761917.html>

<https://www.argusmedia.com/en/news/2522763-fsc-reinstates-vietnamese-wood-pellet-producer-update>

<https://fsc.org/en/newscentre/integrity-and-disputes/fsc-lifts-the-blockage-on-an-viet-phat-energy>

■ (株) トクヤマ (山口)、伊藤忠エネクス (株) (東京) と共同研究してきた CO₂ 固定型リサイクルピーズの試験施工を山口県周南市にあるトクヤマの徳山製造所内で実施(11月21日)。CO₂ 固定型リサイクルピーズは、伊藤忠エネクスの関連会社が手掛ける建設資材(商標:リサイクルピーズ)の原料であるバイオマス燃焼灰に、トクヤマが保有する炭酸化技術を用いてCO₂を固定することで製造した環境配慮型の新しい建設資材。トクヤマは東京センチュリー(株)(東京)、丸紅(株)との共同事業として、徳山製造所敷地内に設備容量300MWのバイオマス混焼発電所を建設。東京センチュリーの連結子会社である周南パワー(株)(山口)が発電事業者で、2022年9月1日の商業運転開始時からホワイトペレットを混焼。徐々に混焼比率を高めるとともに熱効率の高いブラックペレットも投入する計画で、温室効果ガスの大幅削減に努めてきた。今回の試験施工では同バイオマス発電所より発生するバイオマス燃焼灰に、トクヤマのセメント工場から発生した排ガス中のCO₂を固定した後、これを原料として伊藤忠エネクスの関連会社を通じてCO₂固定型リサイクルピーズを製造。トクヤマの徳山製造所内の路盤工事に適用することでCCSを実現した。試験施工完了までの一連の工程で発生したCO₂の量がCO₂固定型リサイクルピーズ1tあたり34.2kg。これに対しCO₂固定量は61.0kgとなり、26.8kg/tのカーボンネガティブを達成したことに【(株)トクヤマ:2023/12/22、東京センチュリー(株):2022/09/01】
https://www.tokuyama.co.jp/news/pdf/2023122201_Release.pdf
https://ssl4.eir-parts.net/doc/8439/ir_material/190145/00.pdf

■ (株) CAST (熊本)、(株) レノバ (東京) が出資する徳島津田バイオマス発電所(徳島)にて実証実験を開始。CAST独自の耐熱・フレキシブル・薄型の特徴を有する圧電センサーを用い、高温環境でも壊れず、工場配管やタンク等の厚み変化をモニタリングし、腐食などによる配管・タンクの減肉を検知する「配管減肉モニタリングシステム」を使用。発電所内のボイラ燃料系統(固体燃料による内部の摩耗減肉が予想される燃料投入シュート)およびボイラ給水系統(稼働時180℃程度の高温水配管保温材下)にセンサーを取り付け、1日2回の定時計測

結果をリアルタイムにクラウドに格納し、オンラインでどこからでも確認できる環境を構築。現場環境において100日以上にわたる長期(2024年3月までに実証終了想定)の実証データを取得するとともに、無線データ伝送の実証を実施する。徳島津田バイオマス発電所は木質ペレット、PKSを燃料とし、設備容量74.8MW、想定年間発電量約50,000万kWh(一般家庭約15万世帯の年間使用電力量に相当)。2023年12月に営業運転を開始したばかり【PR TIMES:2023/12/25、(株)レノバ】
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000069778.html>
https://www.renovainc.com/business/power_plant/tokushimatsuda_biomass/

■ 関西電力(株)(大阪)、京都府舞鶴市にある舞鶴発電所(1、2号機合計出力180万kW)のバイオマス燃料供給設備における火災の調査結果と自社の対応について公表。同発電所のバイオマス燃料(木質ペレット)供給設備で2023年3月14日に火災が発生した件で、同社は4月3日「舞鶴発電所バイオマス設備火災事故対策検討会」を設置。バイオマスサイロ内に残った燃料の搬出後に同社および関係機関による現場確認を行い、検討会において発生経緯および原因、再発防止対策をとりまとめた。それによると、バイオマス燃料が発酵・酸化により発熱・発火に至るメカニズムの認識不足により燃料の管理方法が不適切であったこと、燃料の監視精度および防火対策の運用ルールが不十分であったことが原因としている。それに対し、「受け入れたバイオマス燃料の品質に応じて、適切に消費する」「発酵等のリスクのさらなる低減を目的に、燃料の購入時に求める水分等の基準値を見直す」といった燃料の管理方法の見直しや監視設備の増設、防火対策の運用ルールの改訂等を再発防止策として行うとしている。舞鶴2号機は3月20日、舞鶴1号機は計画作業終了後、7月19日に石炭燃料で運転再開している【関西電力(株):2023/12/26】

https://www.kepco.co.jp/corporate/pr/2023/pdf/20231226_2_j.pdf

■ (株) トーセン(栃木)、10月25日に取得した旧シャープ矢板工場跡地を「エネルフオーレ50デカーレ矢板」と命名。専用ホームページも開設。トーセンは、シャープ(株)(大阪)が2018年にテレビ製造を終了し、事実上撤退した約24万㎡の広大な跡地において、12万㎡/年の原木を消費・加工する製

材工場や木質バイオマス発電、太陽光発電の拠点として再利用することを機に、クリーンエネルギーを活用してもらえる様々な企業や商業施設を誘致する拠点にする目的で土地を取得。

「エネフォーレ 50」は森の資源を地域が自立できるエネルギーにする、製材工場を中心とした 50km の経済圏構想であり、「デカーレ」には decarbonization(脱炭素)と region revitalization(地方創生)の意味が込められている。トーセンは約 3 万 8,000 m³の第 1 工場を 30 億円超かけて改修。年 12 万 m³の原木を製材する予定で、同工場では製材過程で出るおがくずからペレットも生産する。バイオマス発電のプラントも建設し、生産したペレットでの自家発電も計画。稼働予定は 2025 年春【(株)トーセン：2023/12/26、日本経済新聞：2023/12/25】

https://www.tohsen.net/news_about.php?id=123

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC256SJ0V21C23A200000/>

■風力推進装置“全部盛り”の商船三井ドライバルク(株)(東京)の新造船が、(株)大島造船所(長崎)で 2024 年に竣工予定。ウインドチャレンジャーは、船首に搭載した伸縮可能な硬い帆によって風力エネルギーを推進力に変換する装置で、商船三井と大島造船所が実用化。帆 1 本あたり約 5~8%の温室効果ガス(GHG)排出削減効果が見込める。ここへさらに英アネモイ・マリン・テクノロジーズが手掛けるローターセイルを取り付けて併用した場合、平均約 20%の GHG 削減効果が期待できるとされている。全部盛りの新造船は商船三井ドライバルクが運航し、米エンビバ向け木質ペレットを輸送する。エンビバは 2030 年までに操業からの GHG 排出ネット・ゼロを目指し、サプライチェーン全体に関わる排出量の削減に向けてパートナーと協働しさまざまなソリューションを取り入れるとしている【乗りものニュース：2024/01/09】

<https://trafficnews.jp/post/130262>

■2024 年 1 月 1 日発生の令和 6 年度能登半島地震により、北陸電力(株)(富山)でバイオマス混焼予定の七尾大田火力発電所(石川県七尾市)が被災。北陸電力は保有する敦賀火力発電所 2 号機(福井、発電出力 70 万 kW)では 2007 年 6 月から、七尾大田火力発電所 2 号機(発電出力 70 万 kW)では 2010 年 9 月から製材残材を使ってそれぞれバイオマス混焼を開始。さらに両発電所とも 2024 年度以降の混焼比率増加(15%)に向け、設備改造を行い、現在使用している国内材に加え北米や東

南アジアからブラックペレットとホワイトペレットを調達する受入態勢の整備等、諸準備を進めているところだった。能登半島地震の影響により、当時運転中の七尾大田火力発電所 1 号機、2 号機は保護装置が作動して自動停止。設備点検を行った結果、石炭払出機の倒壊、揚炭機の脱輪、煙突支持鉄塔の斜材の座屈・破断、構内道路の陥没・亀裂などの被害を確認。復旧に向けた対応を進めている【OSR No.592：2024/01/10、北陸電力(株)：2024/01/04、2010/09/01

https://www.rikuden.co.jp/thermal_power/nanaohta_noto.html

<https://www.rikuden.co.jp/press/attach/10090102.pdf>

<https://www.rikuden.co.jp/combinedcycle/>

■英政府、1 月 16 日にイングランド北部ヨークシャーの発電所にある発電機 2 基に炭素回収装置を取り付けるため、20 億ポンド(約 3,740 億円)を投じる計画を承認。発電所の運営事業者は英電力会社ドラックス。同発電所はかつて西欧で最も排出量が多かったが、ドラックスは 2019 年、燃料を石炭から木質ペレットを中心とするバイオマスに切り替えた。主に北米から輸入された木材を燃料に使用し、英国の発電量の約 4%を生産している。バイオマスは既に「カーボンニュートラル」を達成しているとみなされ、さらに炭素回収装置を追加し「BECCS」と呼ばれるエネルギーに転換することでカーボンネガティブが達成できるとしている。同社によると、稼働が始まれば、発電機 1 基当たり 400 万 t/年の炭素汚染物質の大気流入を防ぎ、炭素はその後北海の海底に貯留される。ただ「BECCS は有効性が証明されていない議論の多い技術であり、英国国民に多大な金銭コストを負わせる結果になる」と指摘する気候専門家や、バイオマス燃焼で放出された炭素が樹木の成長で吸収されるのには数十年かかるという点で批判する科学者も。木材の調達で森を破壊する可能性を懸念する声も上がっており、議論的となっている【CNN：2024/01/17】

<https://www.cnn.co.jp/world/35214009.html>

■テスホールディングス(株)(大阪)連結子会社の PT PTEC RESEARCH AND DEVELOPMENT(インドネシア、以下「PTEC 社」)が、1 月 22 日に農作物残渣由来のバイオマス燃料である「EFB ペレット」の工場建設予定地にて地鎮祭を開催。同社グループは 2018 年に農作物残渣をバイオマスペレットに加工するための研究開発拠点としてインドネシアに PTEC 社を設立。パーム油産業の代表的な未利用残渣物である EFB 等をはじめとす

る様々な「農作物残渣原料をバイオマスペレット化するノウハウ」を蓄積してきた。このノウハウを活かし、インドネシア西ジャワ州の敷地面積約 9,000 m²のところ EFBB ペレットの製造拠点を建設する。操業開始は 2025 年 5 月頃、操業開始後の年間生産量は約 1 万 t となる予定。生産した EFBB ペレットはインドネシア国営のパーム農園企業である PTPN グループが運営する製茶工場向けに供給し、これまで使ってきた燃料を一部代替する【テスホールディングス (株) : 2024/01/23】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2382676/00.pdf>

■ (株) レノバ (東京)、石巻ひばり野バイオマス発電所の営業運転開始時期の変更について発表。自社の持分法適用会社である合同会社石巻ひばり野バイオマスエナジー (宮城) が保有する石巻ひばり野バイオマス発電所は、木質ペレットと PKS を燃料とし、設備容量 75.0MW、想定年間発電量約 53,000 万 kWh

(一般家庭約 17 万世帯の年間使用電力量に相当)。2024 年 1 月中の運転開始に向けて試運転を進めていたが、長期間の安定稼働に向けたボイラ、タービン設備の最終調整に時間を要しているため、2024 年 3 月中に営業運転開始時期を変更。この変更に伴い、石巻ひばり野バイオマスエナジーは国内 EPC 事業会社である日揮 (株) (神奈川) から完工遅延損害賠償金を受領している。FIT に基づく売電は試運転期間中に既に開始しており、FIT 売電期間は 2023 年 6 月から 2043 年 5 月まで【(株) レノバ : 2024/1/24、日揮ホールディングス (株) : 2020/03/24】

https://www.renovainc.com/news/ir/pdf/20240124_01_PRESS.pdf

https://www.jgc.com/jp/news/2020/20200324_01.html

※OSR : バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

3. イベント情報 (国内)

◎ : 木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■再生可能エネルギー協議会「第 18 回再生可能エネルギー世界展示会」

2024 年 1 月 31 日 (水) ~ 2 月 2 日 (金)

東京ビッグサイト東 7・8 ホール (東京都江東区)

<https://jcrevent.org/2024forum/>

■ENEX 2024 「第 48 回地球環境とエネルギーの調和展」

2024 年 1 月 31 日 (水) ~ 2 月 2 日 (金)

東京ビッグサイト東 7・8 ホール (東京都江東区)

<https://www.low-cf.jp/east/index.html>

■やまがた自然エネルギーネットワーク「~熱と電気のエネルギーミックスを置賜から~やまエネミーティング in 置賜」

2024 年 2 月 4 日 (日)

ペレットマン小国 (山形県西置賜郡小国町)、オンライン

file:///C:/Users/user/Downloads/20220826hisaiboku_1.pdf

■脱炭素チャレンジカップ事務局「脱炭素チャレンジカップ 2024」

2024 年 2 月 6 日 (火)

伊藤謝恩ホール (東京都文京区)

<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/>

■林野庁「令和 5 年度林業イノベーション現場実装シンポジウム」

2024 年 2 月 8 日 (木) ~ 9 日 (金)

木材会館 7 階大ホール及び 6 階小ホール (東京都江東区)

https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/ken_sidou/240112.html

■森から世界を変えるプラットフォーム「民間企業による REDD+ 関連の取組」

2024 年 2 月 9 日 (金)

オンライン (Microsoft Teams)

https://www.jica.go.jp/activities/issues/natural_env/platform/20240209.html

■京都市ごみ減量推進会議 企業向け第 3 回講演会「バイオ燃料 新時代へ~レボインターナショナルの挑戦~」

2024 年 2 月 15 日 (木)

京都経済センター 6 階 6-B 会議室 (京都市下京区)

<https://kyoto-gomigen.jp/works/332.html>

■（公財）東京都環境公社 第4回都民を対象としたテーマ別環境学習講座「再生可能エネルギーの活用と未来～サステナブルな都市・東京」

2024年2月17日（土）

Zoom Webinars によるオンライン講座

<https://www.tokyokankyo.jp/33215.html>

■JPI(日本計画研究所)JPI セミナー「林野庁：森林由来の吸収系 J-クレジット活用促進に向けた取り組みの方向性と具体的な展開について～森林セクターと J-クレジット需要家とのマッチングを強化する方策とは～」

2024年2月21日（水）

JPI カンファレンススクエア（東京都港区）

https://www.jpi.co.jp/seminar/16795?utm_source=prtimes

■国立大学法人東京大学産学協創部「住友林業・東京大学産学協創事業シンポジウム」

2024年2月21日（水）

東京大学弥生キャンパス弥生講堂（東京）/ハイブリッド

https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/events/z1701_00029.html

■森林産業コミュニティ・ネットワーク(FICoN)、他「森林産業コミュニティ・ネットワーク (FICoN) 第9回ウェブ検討会～「森林サービス産業」の地域への展開～」

2024年2月22日（木）

Microsoft Teams によるウェブ形式

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2024/20240222ficon/index.html>

■NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) 第220回研究会「脱炭素化社会に向けてのバイオガスとグリーン水素の実用性（仮題）」

2024年2月27日（火）

地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）および

Zoom オンラインのハイブリッド開催

<https://www.npobin.net/activity/seminar.html>

■NPO 法人農都会議バイオマス WG、他 2月勉強会「農林業の J-クレジット制度～地域の脱炭素化を進めるために制度の基本と事例を学び、課題について考える～」

2024年2月27日（火）

オンライン開催（Zoom など利用）

<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/420>

■RX Japan(株)「第9回【国際】バイオマス展【春】」

2024年2月28日（水）～3月1日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.wsew.jp/hub/ja-jp/about/bm.html>

■RX Japan (株) スマートエネルギーWeek 春

2024年3月1日（水）～3日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.wsew.jp/spring/ja-jp.html>

■（一財）新エネルギー財団令和5年度バイオマス講演会「早生樹のポテンシャルを木質バイオマス発電に活用する（仮）」

2024年3月4日（月）

Zoom ウェビナー

<https://www.nef.or.jp/topics/2024/20240129.html>

■（一社）日本森林学会「第135回日本森林学会」

2024年3月8日（金）～11日（日）

東京農業大学世田谷キャンパス1号館（東京都世田谷区）

<https://www.forestry.jp/meeting/meeting-135/>

■広島大学バイオマスプロジェクト研究センター「第13回バイオマスプレミアムイブニングセミナー」

2024年3月11日（月）

ZOOM オンライン

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/adse/news/81430>

■（一財）環境イノベーション情報機構「～気候変動の課題解決に取り組む～学生ワークショップ」

2024年3月13日（水）～3月17日（日）

国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

<https://www.eic.or.jp/eic/topics/2024/info/002/>

◎岩手・木質バイオマス研究会第23回定例セミナー「木質ペレットの現状（仮題）」
2024年3月15日（金）
アイーナ7階 岩手県立大学アイーナキャンパス学習室2
（岩手県盛岡市）
<https://wbiwate.jimdofree.com/%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88%E6%83%85%E5%A0%B1/>

■BIO FUELS & CARBON

2024年5月13日（月）～14日（火）
東京
<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240501&>

■BIOMASS INNOVATIONS ASIA 2024

2024年5月13日（月）～15日（水）
東京
<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240501&>

◎14th Biomass Pellets Trade & Power

2024年5月13日（月）～16日（木）
東京
<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240203&>

◎2024NEW 環境展/2024 地球温暖化防止展
2024年5月22日（水）～24日（金）
東京ビッグサイト（東京都江東区）
<https://www.n-expo.jp/>

◎RX Japan(株)「第22回 SMART ENERGY WEEK【秋】」
2024年10月2日(水)～4日(金)
幕張メッセ（千葉県千葉市）
<https://www.wsew.jp/autumn/ja-jp.html>

◎RX Japan (株)「第12回 SMART ENERGY WEEK【関西】」
2024年11月20日(水)～22日(金)
インテックス大阪（大阪）
<https://www.wsew.jp/osaka/ja-jp.html>

4. イベント情報（海外）

◎Nordic Pellets Conference 2024
2024年1月31日（水）～2月1日（木）
マルメ（スウェーデン）
<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-conference-2024/>

■ENEX 2024 - International Power Industry and Renewable Sources of Energy Fair
2024年2月7日（水）～8日（木）
キエルツェ（ポーランド）
<https://www.targikielce.pl/en/enex>

■LIGNOFUELS 2024
2024年2月7日（水）～8日（木）
ヘルシンキ（フィンランド）
<https://www.wplgroup.com/aci/event/lignocellulosic-fuel-conference-europe/>

■WBA Spring webinar series: Modern renewable heat using biomass for industries
2024年2月27日（火）
ウェビナー
<https://www.worldbioenergy.org/news/770/47/World-Bioenergy-Association-announces-Spring-webinar-series/>

■Low Carbon Fuels Summit
2024年2月27日（火）～28日（水）
シンガポール
<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240202&>

◎7th Biomass Trade & Power Europe
2024年2月28日（水）～29日（木）
コペンハーゲン（デンマーク）
<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240203&>

■Progetto Fuoco

2024年2月28日(水)～3月2日(土)

ヴェローナ(イタリア)

<https://www.progettofuoco.com/en/>

■2024 International Biomass Conference & Expo

2024年3月4日(月)～6日(水)

ヴァージニア州リッチモンド(USA)

<https://2024->

[ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home](https://2024-ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home)

◎Argus Biomass Asia Conference

2024年3月5日(火)～7日(木)

シンガポール

<https://www.argusmedia.com/ja/conferences-events-listing/biomass-asia/speakers>

■World Sustainable Energy Days

2024年3月5日(火)～8日(金)

ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference>

◎European Pellet Conference 2024

2024年3月6日(水)

ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference>

■Gasification 2024

2024年3月20日(水)～21日(木)

ヘント(ベルギー)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/gasification/>

■ZENTRUM WALD FORST HOLZ

2024年3月21日(木)

フライジング(ドイツ)

<https://dfuv.eu/veranstaltungen/kategorie/veranstaltungen/>

◎BIOMASA 2024

2024年4月7日(日)～11日(木)

ブルノ(チェコ共和国)

<https://www.bvv.cz/en/biomasa/event-profile>

■WFES 2024 – World Future Energy Summit

2024年4月16日(火)～18日(木)

アブダビ(アラブ首長国連邦)

<https://www.worldfutureenergysummit.com/>

◎Argus Biomass Conference

2024年4月23日(火)～25日(木)

ロンドン(UK)

[https://www.argusmedia.com/conferences-events-](https://www.argusmedia.com/conferences-events-listing/biomass?utm_source=conf-)

[listing/biomass?utm_source=conf-partner&utm_medium=referral&utm_campaign=euaf-erc-2024-04-bim-biomass&utm_content=euaf-erc-2024-04-bim-biomass-eu-be-listing-12-23](https://www.argusmedia.com/conferences-events-listing/biomass?utm_source=conf-partner&utm_medium=referral&utm_campaign=euaf-erc-2024-04-bim-biomass&utm_content=euaf-erc-2024-04-bim-biomass-eu-be-listing-12-23)

■WBA Spring webinar series: The Future of Liquid Biofuels

2024年4月30日(火)

ウェビナー

<https://www.worldbioenergy.org/news/770/47/World-Bioenergy-Association-announces-Spring-webinar-series/>

■BOILER 2024 | ABMA Boiler Technology Conference & Expo

2024年5月1日(水)～3日(金)

コロラド州デンバー(USA)

<https://abmaboilerexpo.com/>

■Waste Expo

2024年5月6日(月)～9日(木)

ネバダ州ラスベガス(USA)

<https://www.wasteexpo.com/en/home.html>

■ALL ENERGY EXHIBITION AND CONFERENCE 2024

2024年5月15日(水)～16日(木)

グラスゴー(UK)

<https://www.all-energy.co.uk/>

■7th Biomethane Congress

2024年5月21日(火)～22日(水)

ポズナン(ポーランド)

<https://magazynbiomasa.pl/en/narodowy-kongres-biometanu/>

©European Pellets Forum 2024

2024年5月28日(火)～29日(水)

ナント (フランス)

<https://pellet-forum.eu/>

©Propellet

2024年5月29日(水)

ナント (フランス)

<https://pellet-forum.eu/>

■Carbon Capture & Storage Summit

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

http://fuel ethanol workshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Carbon_Capture_Storage_Summit

■International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

<https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Home>

■Biodiesel Summit: Sustainable Aviation Fuel & Renewable Diesel

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

<https://few.bbiconferences.com/Biodiesel.html>

■WBA Spring webinar series: Role of Bioenergy in Atmospheric CO2 Removal

2024年6月18日(火)

ウェビナー

<https://www.worldbioenergy.org/news/770/47/World-Bioenergy-Association-announces-Spring-webinar-series/>

■International Biogas Congress & Expo

2024年6月18日(火)～19日(水)

ブリュッセル (ベルギー)

<https://bioenergy-news.com/conference/about-biogas/>

■26th IUFRO WORLD CONGRESS

2024年6月23日(日)～29日(土)

ストックホルム (スウェーデン)

<https://iufro2024.com/>

■EUBCE 2024 - 32nd European Biomass Conference and Exhibition

2024年6月24日(月)～27日(木)

マルセイユ (フランス) /オンライン

<https://www.eubce.com/>

■2024 International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024年7月10日(水)～12日(金)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

<https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Home>

■2024 Biodiesel & Renewable Diesel Summit

2024年7月10日(水)～12日(金)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Biodiesel_Summit_Sustainable_Aviation_Fuel_Renewable_Diesel

■2024 Carbon Capture & Storage Summit

2024年7月10日(水)～12日(金)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Carbon_Capture_Storage_Summit

■FinnMETKO 2024

2024年8月29日(木)～31日(土)

ヤムサ (フィンランド)

<https://www.finnmetko.fi/>

■Progress in Biogas VI

2024年9月2日(月)～4日(水)

シュトゥットガルト (ドイツ)

<https://ibk-biogas.com/schedule/progress-in-biogas/>

■North American SAF Conference & Expo

2024年9月11日(水)～13日(金)

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

■Renewable Gas Trade Fair 2024

2024年10月1日(火)～2日(水)

バリャドリード(スペイン)

<https://salondelgasrenovable.com/en>

■2024 National Carbon Capture Conference & Expo

2024年11月19日(火)～20日(水)

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://2024-nccc.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

■Elmia Wood

2025年6月4日(水)～7日(土)

ヨンショーピング(スウェーデン)

<https://www.elmia.se/en/wood/>

5. 公募等情報(締切順)

■(株)トビムシ「休眠預金活用事業」

公募締切 2024年2月9日(金)

<https://tobimushi.co.jp/kyuminyokin>

■(一財)地球・人間環境フォーラム「公益信託地球環境日本基金の2024年度(令和6年度)募集開始」

申請締切日 2024年2月16日(金)

<https://www.gef.or.jp/news/info/chikyukankyonihonkikin-2024boshu/>

■栃木県「今すぐ始められる脱炭素の取組を紹介します!(脱炭素普及啓発事業)」

募集期間 2023年4月12日(水)～2024年2月中旬まで

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/hukyuukehatsu.html>

■経産省資源エネルギー庁「令和6年度エネルギー需給構造高度化対策調査等事業(FIT/FIP制度におけるバイオマス発電に用いる燃料の持続可能性及びGHG排出量基準等に関する調査)に係る入札可能性調査について」

公募期間 2024年1月30日(火)～2月19日(月)

https://www.enecho.meti.go.jp/appli/public_offer/2023/0130_02.html

■NEDO「『バイオものづくり革命推進事業』に係る第2回公募について」

受付期間締切 2024年2月26日(月)

https://www.nedo.go.jp/koubo/EF2_100215.html

■長野県「未利用木材を含めた森林資源の有効活用に取り組む事業者を募集します(未利用材等活用システム構築支援事業)」

提出期限 (1)計画作成表明書:2024年2月29日(木)

(2)未利用材等活用システム計画:2024年3月15日(金)

<https://www.pref.nagano.lg.jp/mokuzai/happyou/240126press.html>

■長野県「令和5年度信州健康ゼロエネ住宅助成金」

募集期間 2023年11月1日(水)～2024年3月15日(金)

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kenchiku/kenkozeroene/joseikin.html>

■長野県塩尻市「塩尻市木質バイオマス利用設備設置費等補助金(ペレットストーブ、ペレットボイラー用燃料)」

申請書受付期間 2023年4月3日(月)～2024年3月15日(金)

<https://www.city.shiojiri.lg.jp/soshiki/30/2997.html>

■兵庫県宍粟市「宍粟市再生可能エネルギー利用促進事業補助金(木質バイオマス燃料製造設備導入費用助成)」

受付期間 2023年4月3日(月)～2024年3月15日(金)

<https://www.city.shiso.lg.jp/soshiki/sangyo/rinngyousinnkou/tan-toujyouhou/shinenerugi/1515747696234.html>

■農水省大臣官房環境バイオマス政策課「農林漁業バイオ燃料法に基づく事業計画、支援措置（固定資産税の特例等）」
固定資産税の特例の適用期限 ～2024年3月31日（日）まで
<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/bio/nenryoho/>

■FAO Global Bioenergy Partnership 「2024 GBEP Youth Award」
応募締切 2024年3月31日（日）まで
<https://www.fao.org/in-action/global-bioenergy-partnership/programme-of-work/working-areas/youth-involvement-in-gbep/gbep-youth-award/2024-gbep-youth-award---call-for-paper/en>

■林野庁「『森ハブ・プラットフォーム』参画企業・団体等を募集」
https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/ken_sidou/230904.html

■岐阜県美濃加茂市「美濃加茂市里山千年構想推進業務補助金」
https://www.city.minokamo.gifu.jp/shimin/contents.cfm?base_id=11257&mi_id=1&g1_id=9&g2_id=0

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」
<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」
<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県木質資源利用促進事業費補助金」
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030501/2019022200068.html>

■高知県「再生可能エネルギー利活用事業費補助金」
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/2015060100117.html>

■高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」
http://www.city.kochi-konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html

■高知県仁淀川町「仁淀川町再生可能エネルギー利活用事業費補助金」
http://www.town.niyodogawa.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r191RG0000129.html#e000000030

■北海道「林業・木材産業改善資金」
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/kaizennshikinn.pdf>

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」
<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」
<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■富山県南砺市「南砺市木質ペレット燃料普及拡大推進事業補助金」
<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=24564>

■富山県南砺市「南砺市木質ペレット燃料高騰対策事業補助金」
<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=25479>

■栃木県「栃木県環境保全資金（省エネ設備等の導入）」
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyuu/ondanka/syouten-setubi-yuusi.html>

※融資制度

■徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金貸付制度」
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen/5007685/>

※融資制度

■奈良県「新エネルギー等対策資金」
<http://www.pref.nara.jp/23346.htm>

※融資制度

■（公財）日本環境協会「令和2年度環境配慮型融資促進利子補給事業」

https://www.jeas.or.jp/activ/prom_24_00.html

※融資制度

■神奈川県横浜市「よこはまプラス資金（環境・エネルギー対策）」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/plus/hozenshikin.html>

※融資制度

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

※融資制度

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00006264.html>

※融資制度

■千葉県「環境保全資金（制度全般事業認定）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/chikyukankyou/ne/shien-jigyousha.html>

■千葉县市原市「市原市企業立地促進条例」

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/kanko/0205sangyou/kigyourittigaido.html>

■NEDO「2024年度『木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業』に係る公募について」【予告】

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100387.html

※2024年3月上旬から1カ月間公募予定